



東京理科大学

維持会レター

第39号

vol.39 2024.1



学校法人 東京理科大学 理事長

浜本 隆之

新年あけましておめでとうございます。維持会会員の皆様におかれましては、日頃から本学の教育・研究に対し温かいご理解を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は学内最大の10学科を擁する理工学部が「創域理工学部」として新たにスタートし、先進工学部には2学科が新設されるなど、学部学科の再編が全学的に行われました。また、コロナ禍により利用を中止していた北海道・長万部キャンパスの全寮制での学びが再開するなど、全てのキャンパスに従来の活気が戻ってまいりました。

翻って、社会全体に目を向けますと、不安定な世界経済の影響による急激な物価の上昇、急速な少子高齢化の進展と18歳人口の減少、グローバル競争の激化など、大学を取り巻く環境の厳しさは枚挙に暇がありません。本学では「TUS VISION 150」という大きな目標に向けて日々歩みを進めておりますが、このような国難ともいべき時代だからこそ、我々の信念である「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神に立ち返り、研究・教育活動に堅実かつ着実に取り組んでいくことで高度な理工系人材を社会に輩出し続けることが、本学の使命であると考えております。

長き伝統を有する東京理科大学の新たな改革は、まだ道半ばです。最先端の教育研究環境を整備し、本学の魅力をさらに高めていくためには、老朽化したキャンパスの再構築や機器の更新等も着実に進めていかなければなりません。また同時に、学生が経済的な困窮を理由に修学を諦めたりすることがないよう、「誰一人取り残さない」ための手厚い支援も必要不可欠であります。

維持会の皆様からの貴重なご厚志につきましては、教育研究のため有効に活用させていただきますので、引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



東京理科大学 維持会 会長

酒井 陽太

維持会会員の皆様 明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃より維持会の活動にご理解、ご協力をいただき感謝を申し上げます。今回は研究助成金についてお伝えしたいと思います。

昭和24年(1949年)戦後の学制改革で東京理科大学となった最初の学長に東北帝国大学総長を勤められた本多光太郎(1870-1954)が就任します。本多光太郎はKS鋼という当時としては世界最強の永久磁石鋼を大正6年に発明したことで脚光を浴び、「鉄鋼の父」と言われています。

このKS鋼発明の経緯には研究者と支援者の関係について有名なエピソードがあります。KS鋼のKSは住友吉左衛門(住友グループの前身・住友総本店店主)のイニシャルから名付けられました。本多はKS鋼発明のための研究費を住友総本店から三年間にわたり毎年七千円の支援を受けました。今の価値にすると数千万円になるかと思えます。KS鋼発明に成功した本多はすぐに特許を取得し、その特許権を東北帝国大学の了解のもと、住友吉左衛門に無償で譲渡しました。住友はこれをもとに英・米・独・仏・伊に特許請求し、独シーメンス社、米ウェスティングハウス社などが自社の電気製品にKS鋼を採用するに至ります。特許料を得た住友は大正8年、東北帝国大学に30万円を寄贈します。その資金は鉄鋼研究所をつくる主要な資金となりました。

今日、大学を取り巻く環境も世間一般と変わらず大きく変化しています。

例えば、研究分野の競争も国内ばかりか海外を相手に熾烈を極めていきます。私は産学連携の実例を見る機会があり、研究者と事業者の思いが合致していないことをしばしば見たり聞いたりします。

研究者は仮説の証明や新技術や材料の開発に情熱を燃やし、学問的成果を目指します。一方、事業者は出資・投資をしますが、これには通常、効果や回収といった経済的利益の獲得が優先されます。そこで大学研究者と事業者の間を取り持ち、研究成果を社会実装できるコーディネーターの役割がとても重要になっていると思えます。本多光太郎の「産業は学問の道場」という言葉は今も生きています。

維持会は、KS鋼の例を心に刻み、大学の教育研究活動を支援できるよう、一層努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第 89 回 常任維持会報告

東京理科大学維持会は、東京理科大学創立者の先生方からの寄付によって財政の苦難を乗り越えた遺徳にならい、大学の維持及び発展に寄与することを目的とした組織です。

維持会は、東京理科大学維持会会則にもとづき、常任維持会を設置し運営しております。常任維持会の構成員は、栄誉会員及び特別会員のうちから 10 名以内を、理事長が理事会の議を経て委嘱することになっており、2023 年 11 月現在 10 名の方が常任維持会員として委嘱されております。常任維持会は、年 2 回開催され、法人の維持及び発展に寄与する活動に関する事、維持会会員に関する事、寄付者に対する顕彰に関する事などを審議しております。



2023 年 11 月 2 日に開催された第 89 回常任維持会について、主な点を報告いたします。

1. 維持会会員承認について

2023 年 4 月 1 日から 2023 年 9 月 30 日の間に寄付された新規会員 37 名と追加寄付 451 件について報告があった。

2. 顕彰者について (2023 年 4 月 1 日～ 2023 年 9 月 30 日)

栄誉会員 E に 2 名、特別会員に 6 名が昇格及び入会したことの報告があった。

栄誉会員 E : 元教員のご親族

金子 榮三 様 昭和 32 年理学部第二部化学科卒

特別会員 : 小野 具彦 様 昭和 42 年理学部第一部化学科卒

宗政 信傑 様 平成 21 年工学部工業化学科卒

福田 善政 様 昭和 40 年理学部第一部化学科卒

星野 清治 様 昭和 54 年理学部第一部応用物理学科卒

竹中 正 様 元教職員

原 豊 様 昭和 52 年理学部第一部応用数学科卒

【常任維持会】

会 長 酒井 陽太

副会長 岡本 公爾 加藤 和詳

会 員 秋山 仁 岡村 総一郎 坂本 功 望月 圭一郎

本山 和夫 山田 義幸 吉本 成香

(任期:2020 年 12 月 28 日から 2024 年 12 月 27 日まで)

【維持拡充資金(第二期) 寄付額】

(2023年4月1日～2023年9月30日)

個	人	59,489,200円
団	体	160,000円
こ	う	よ
う	会	14,633,000円
法	人	600,000円
<hr/>		
合	計	74,882,200円

**維持拡充資金(第二期) について
(2022年度分報告)****【2022年度 維持拡充資金(第二期) 寄付総額】**

(2022年4月1日～2023年3月31日)

個	人	187,360,000円
団	体	7,752,214円
こ	う	よ
う	会	32,843,000円
法	人	212,650,797円
<hr/>		
合	計	440,606,011円

—訃報—

栄誉会員 塚本 桓世 様 (つかもと たけよ = 82歳)

令和5年8月18日ご逝去されました。昭和40年理学部第一部応用物理学科卒。平成14年から平成24年まで学校法人東京理科大学第6代理事長を務められ、募金活動の推進にご尽力いただきました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

維持会奨学金を受給した学生からのメッセージ

2022年度に学生70名に対して、18,350,000円の奨学金を給付しました。今回は維持会奨学金を受給した学生から感謝のメッセージが寄せられましたので、皆さまの暖かいご厚志に対する感謝の気持ちと、将来への志を持って懸命に勉学に励む姿をご紹介します。

今後とも、本学の発展にご理解とご賛同をいただき、格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●維持会奨学金に採用された感想

◆創域理工学研究科建築学専攻 1年

今回「維持会奨学金」に採用いただき、両親に対する負担を減らすことができたと感じております。家庭の財政状況として両親の収入だけで学費全額を賄うのが難しいことに加え、私自身なるべく学業に専念したい気持ちがあり、大学生の頃から日本学生支援機構の奨学金も借りてどうにか学費を払っている状況ではありますが、今回ご支援いただき、両親が負担している学費の額を減らすことができました。心より感謝申し上げます。

◆工学研究科機械工学専攻 1年

大学院の学費について、両親から金銭面での支援を受けられず、院進学に不安を抱いていました。しかし、本奨学金をいただくことができて、前向きに院進学を考えることができました。寄付をしていただいた方々に深く感謝しております。本奨学金が他の奨学金と大きく異なる点として、完全な給付型であること、そして、親の所得に関係なく学生の能力や意志のみで判断されることがあります。この奨学金によって、金銭面で院進学を躊躇していた志の高い学生が本学の院に進み、今後社会の発展に多く貢献していただろうと思います。

◆理学研究科物理学専攻 1年

維持会奨学金に採用され、非常に嬉しく思います。大学院に進学することを決めたものの経済面での不安が大きかったため、奨学金に採用されたときは感謝の気持ちとともに安堵しました。安心感により挑戦する気持ちがさらに充実し、今まで手が届かなかった書籍を購入できたことで喜びはひとしおです。よい環境を整えられたのも奨学金のおかげであり、とても感謝しています。

◆創域理工学研究科社会基盤工学専攻 1年

この度奨学金のご支援をいただきまして、大変感謝しております。私は大学入学時から交通計画を研究したいと考えており、希望の研究室に入るために努力をしてきました。予備校のアルバイトをしながら、祖父母の介護を行っている母の手伝いをするという多忙な中で勉学に励んできました。そして、奨学金のご支援のおかげで研究に没頭することができ、学会発表を認めていただくことになりました。ありがとうございます。

◆工学研究科建築学専攻 1年

まず、奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。私は中学生の時に建築家を志し、建築分野に大学から足を踏み入れました。貴重な学びの時間を最大限確保し、設計力を鍛えるように努力しようと思いながら入学式を迎えたことを覚えています。奨学生に採用された時には、卒業設計や卒業論文、日々の授業などを絶えず努力してきたことが評価されたと感じ、とても嬉しく、また入学式の初心を改めて大切にしていこうと思いました。

●奨学金をどのように活用しましたか？

◆工学研究科電気工学専攻 1年

学費の一部および、パソコンのバッテリー交換など研究環境がより良くなるための費用に主に充てました。また、語学力向上のため、英語の参考書や資格試験の費用に利用させていただきました。

◆工学研究科情報工学専攻 1年

大学院入学を機に、CPUとメモリ性能の良いパソコンの必要性を感じ、購入資金として奨学金を利用させていただきました。これにより、より効率的な学習や研究が可能になったと感じております。

◆創域理工学研究科経営システム工学専攻 1年

学会発表・論文投稿など、研究成果を世の中へ発表するためには多くの費用が必要です。大学から頂ける予算では補助することの難しい、発表先での食費・生活費や、論文投稿における英文校正費などに利用し、積極的な研究活動を支えていただきました。

◆創域理工学研究科社会基盤工学専攻 1年

主に大学までの通学定期やインターンシップ等で地方に行く際の旅費として活用しました。また、研究を行う上で必要となる学問の参考書の購入に充てました。

◆先進工学研究科物理工学専攻 1年

私は受給した奨学金を大学院の学費の支払いに使用しました。自分で学費を払う中で奨学金は大きな助けになり、財政的な負担が減ったことで学業に集中することが出来ました。

●いま大学で力を注いでいること

◆理学研究科化学専攻 1年

私は現在、微細な金属を使用して、水から水素を生成する水分解光触媒の研究に力を入れています。留学中は、日本での液相実験に加えて、気相反応の水分解反応を研究しています。世界と戦う研究である以上、他国の研究や生活をこの目で見て勉強する毎日を送っています。

◆理学研究科応用数学専攻 1年

離散数学におけるグラフ理論の研究です。その中でも私は主に、約80年間未解決である「ハドワイガー予想」の解決に寄与できるよう、現在はこの予想の証明に取り組んでいます。

◆工学研究科情報工学専攻 1年

医薬統計の勉強に励んでいます。私の専攻内容が人々の生活に寄与できる可能性にやりがいを感じています。大学院生活でたくさんのごことを吸収し、将来的には製薬会社の開発職として人々のヘルスケアに貢献できるような人材になりたいと思っています。

◆創域理工学研究科電気電子情報工学専攻 1年

5Gやそれ以降の次世代無線通信システムにおいて、さらなる通信の高速化に向けた研究に取り組んでいます。私は将来、通信インフラを支える技術者になることを志しています。そのため、通信技術の発展に少しでも貢献できるよう、今後も学会発表を通じて、自身の研究を社会に発信し続けていきます。

◆先進工学研究科電子システム工学専攻 1年

大学では「人工知能」に関する研究に熱心に取り組んでいます。ほかにも医療AIに関するアルバイトや人工知能の開発コンペティションに参加することで、実際の課題解決を通じてスキルを磨いています。これらの経験を通じて、理論と実践の両方から人工知能の深い知識とスキルを高めています。

◆創域理工学研究科建築学専攻 1年

現在、防災系の研究室で、スプリンクラー設備作動時の煙流動性状に関する研究に力を注いでおります。この研究を通して、建築の安全性を再定義し、安全な建築づくりに貢献できると考えています。

●支援をくださった方々へのメッセージ

◆理学研究科数学専攻 1年

自分の貯金で学費を賄い大学院に通うかどうか考える際、どうしても経済的な不安が拭えずにいました。そんな時この奨学金について知り、背中を押されたように感じました。今では大学院へ進学してよかったと心より思っております。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

◆創域理工学研究科情報計算科学専攻 1年

維持会奨学金に私を採用していただき、誠にありがとうございます。お陰様で、大学院に進学したいという留学当初の目標を諦めずに達成することができました。感謝の気持ちを忘れることなく、価値のあるところに、いただいた奨学金を使わせていただきます。

◆創域理工学研究科数理科学専攻 1年

今回、支援をくださりありがとうございます。頂いた奨学金を存分に活用し、大学院生としての活動や経験を充実させていきます。そして卒業後は高校数学の教員として、大学で得た学びを高校生に還元していきたいと思っております。

◆創域理工学研究科経営システム工学専攻 1年

ご支援賜りました全ての方に心から感謝申し上げます。貴重な支援により、私は学業に専念し国際会議での発表やDX連携コース・ポスター発表の受賞などの結果を残すことができました。維持会奨学金は私の学術的な成長を支えていただいております。今後も社会に貢献できるように尽力してまいります。

※都合により、一部編集して掲載しております。
※2023年度の所属・学年を掲載しています。



寄付金の使途について

皆様のご寄付は東京理科大学発展のために幅広く活用させていただいております。

奨学金支援

学生生活の支援に

理科大らしく誰もが学ぶことができるように、
経済支援・学業伸長支援の両面から支える
奨学金制度を充実させます

- 維持会奨学金
- フタムラ化学奨学金
- 渡辺一之奨学金
- 大澤賢一奨学金
- 関智弘奨学金
- 白井康雄奨学金
- 森野義男奨学金
- 細川斉子奨学金
- 鶴志会奨学金

※ 2022年度は、70名の学生に対して給付を行いました。



教育研究推進支援

豊かな教育・研究環境のために

「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」の実現を目指します

■ 教育

▶ 「データサイエンス教育プログラム」の整備

データサイエンスセンターが中核となり、データサイエンスの新たな応用展開を牽引する人材育成のためのプログラムを整備する。

▶ 教育DXの推進

教育DX推進センターが中心となり、教育の在り方の検討と新しい教育方法の開発を進める。

▶ 「くさび形教養教育カリキュラム」の導入

「3年生以上で一般教養科目4単位以上」の取得を義務化し、内容面においても多彩で本格的な教養科目を配置して学生が興味関心を広げたり深めたり、新しいことに挑戦できるようにする。

■ 研究

女性研究者支援

トップ研究者育成支援

国際共同研究支援

次世代研究者支援



ネット寄付の決済クレジットカードブランドを追加

2023年9月より、ネット寄付の利便性向上のため、ご利用頂けるクレジットカードブランドにJCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club を追加しました。

ご利用頂けるクレジットカードブランド



VISA



MasterCard



JCB



AMERICAN EXPRESS



Diners Club

キャンパス維持拡充支援

ICT 教育の強化&葛飾キャンパス新棟建設に

各キャンパスの地域性・特色を生かしてハード・ソフトの両面で、充実した教育研究環境の整備を図ります

■スマートキャンパスの実現

- IT 環境の整備
- キャッシュレス決済
- 仮想環境の整備

■エコキャンパスの推進

- カーボンニュートラルを目指した施設・設備
- 創エネルギー・再生可能エネルギーの利用検討



課外活動支援

課外活動を通じたリーダーシップと挑戦力の育成

体力や技能の向上、多様な文化的興味へのアプローチ、人間関係の構築等、実り多い大学生活を応援します

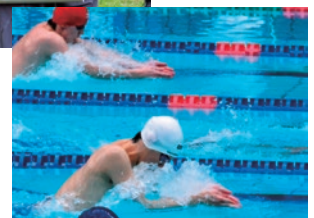
課外活動支援

課外活動環境整備支援

サイエンスフェア参加団体支援

課外活動を通じた様々な経験は、コミュニケーション能力、企画力や実践力等を高めるのに効果的であり、本学の建学の精神にも通じる社会貢献にもつながります。多様な学生の参加の場を創出し、学生の人的成長や創造力・挑戦力の醸成を促進する体制を構築します。

※ 2022 年度は、230 件の支援を行いました。



東京理科大学は
2031年に創立150周年を迎えます。
更なるご支援をお願いします。

インターネット寄付の
お申し込みはこちら



ご住所などの変更があった場合は、下記まで必ずご連絡ください。

募金・維持会についての問い合わせ先

学校法人東京理科大学 募金事業事務室

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3
TEL 03-5228-8723 (ダイヤルイン) FAX 03-3260-4363
<e-mail>bokinjigyo@admin.tus.ac.jp
<URL><https://www.tus.ac.jp/donation/purpose/>

募金について



維持会について

